

高知大学人文学部FD講演会

【講演者】 木村 俊雄

福島原発事故調査の不備と 再稼働について

2014

5.26月

高知大学人文学部棟5F 第1会議室

午後6:10~7:40

〔企画意図〕



木村俊雄さんプロフィール

元東電社員、自給エネルギーチーム共同代表。「東京電力学園」卒業後、1983年東電入社。福島第1に配属・研修。新潟原発で試運転および使用前検査業務に従事。柏崎刈羽原発にて燃料管理業務、福島第1原発にて炉心設計管理業務に従事。

福島原発事故の後、高知県土佐清水市で避難生活をしながら、独立型ソーラーシステムの設計・施工を中心に活動。

3.11から3年余、事故に対する記憶の風化が進む中、現在の安倍政権は「成長戦略」で再稼働や海外輸出を掲げ、原子力利用の復活や核燃サイクル政策の推進といった「エネルギー基本計画」を発表する等、「原発ゼロ政策」からの転換が進められています。

しかし、こうした3.11からの「逆戻り」の反面で、福島では今なお事故の収束見通しが立たず、多数の避難者が帰還できずに暮らしています。

果たして、福島原発事故とは一体何だったのか。
私たちは、この問題にどう向き合ったらいいのか。

自由な批判的精神で教育・研究を担う大学としても、この問題について真摯に取り組み、学生と接していく必要があると思います。

このたび、東電社員時代に原子炉の設計・制御に関わる部署で働いていた木村俊雄さんをお招きして、福島原発事故の問題の本質や大学人・社会人としての私たちの姿勢について、一緒に学びたいと思います。

***本学教員だけでなく、学生や一般の方も自由に参加できます。**

共催：高知大学人文社会科学部門「『持続可能性』と地域・交流」プロジェクト、人文学部教育推進委員会